

平成 27 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4075600090		
法人名	有限会社 三益		
事業所名	グループホーム 田苑		
所在地	宮若市福丸247番地1		
自己評価作成日	平成27年7月2日	評価結果確定日	平成27年8月5日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートうりずん
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号
訪問調査日	平成27年7月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎月講師を招聘し介護や高齢者に関しての勉強会を実施して、キャリアアップを図っている。地域の方や他の施設の方にも開放して高齢者介護やGHへの理解を深めて頂いている。外部の方々やご家族・親族などの出入りも多く開かれた施設であることに役立っている。自家農園で栽培した野菜などを食べながら調理方法で用意させていただき、季節の催事を大切にしながら昔ながらの料理を楽しんでいる。食べ残しはほとんどなく、入居者・職員が同じ食事を一緒に食卓を囲んでいる。3回の食事や2回のおやつは、特別のことがない限り全員一緒に食堂で召し上がっていただいている。寝たきりにしないで離床を勧めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設12年目のグループホーム田苑は、職員の離職も少なく理念や介護の心得をケアの基本と捉え、入居者の一瞬一瞬の笑顔を大切にケアに取り組んでいる。地域同業者協議会や外来講師による研修で学んだ、「入居者の姿は自分の姿、一人一人が大切にしている思いは違う」を念頭に入れ、命に係わること以外は見守り、個人の人格を尊重したケアが実践されている。入居間もない方やひとりで過ごしたい方、愛用の化粧品でお化粧して外出される方など其々の思いに配慮した支援が行われ、紙パンツで入居された方も適切な支援で、トイレで排泄できている。地域や行政、関連医療機関等と良好な関係が開所以来継続し、ボランティアの方が編集されたビデオは運営推進会議等で放映するなど、地域の理解や協力も継続している。今後も、地域に密着しながら理念の具現化が期待できる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	☐	1. ほぼ全ての利用者の	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	☐	1. ほぼ全ての家族と
		☐	2. 利用者の2/3くらいが			☐	2. 家族の2/3くらいと
		☐	3. 利用者の1/3くらいが			☐	3. 家族の1/3くらいと
		☐	4. ほとんど掴んでいない			☐	4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	☐	1. 毎日ある	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	☐	1. ほぼ毎日のように
		☐	2. 数日に1回程度ある			☐	2. 数日に1回程度
		☐	3. たまにある			☐	3. たまに
		☐	4. ほとんどない			☐	4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	☐	1. ほぼ全ての利用者が	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	☐	1. 大いに増えている
		☐	2. 利用者の2/3くらいが			☐	2. 少しずつ増えている
		☐	3. 利用者の1/3くらいが			☐	3. あまり増えていない
		☐	4. ほとんどいない			☐	4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	☐	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	☐	1. ほぼ全ての職員が
		☐	2. 利用者の2/3くらいが			☐	2. 職員の2/3くらいが
		☐	3. 利用者の1/3くらいが			☐	3. 職員の1/3くらいが
		☐	4. ほとんどいない			☐	4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	☐	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	☐	1. ほぼ全ての利用者が
		☐	2. 利用者の2/3くらいが			☐	2. 利用者の2/3くらいが
		☐	3. 利用者の1/3くらいが			☐	3. 利用者の1/3くらいが
		☐	4. ほとんどいない			☐	4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	☐	1. ほぼ全ての利用者が	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	☐	1. ほぼ全ての家族等が
		☐	2. 利用者の2/3くらいが			☐	2. 家族等の2/3くらいが
		☐	3. 利用者の1/3くらいが			☐	3. 家族等の1/3くらいが
		☐	4. ほとんどいない			☐	4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	☐	1. ほぼ全ての利用者が			☐	1. ほぼ全ての利用者が
		☐	2. 利用者の2/3くらいが			☐	2. 利用者の2/3くらいが
		☐	3. 利用者の1/3くらいが			☐	3. 利用者の1/3くらいが
		☐	4. ほとんどいない			☐	4. ほとんどいない

自己評価および外部評価結果

ユニット／事業所名 **グループホーム 田苑**

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	介護理念5項目を玄関、リビングに掲示して、引き継ぎ、ミーティング等で実践の有無を確認して、反省点は助言して理念の実践につなげている。	理念や介護の心得をケアの基本と捉え、日々実践に取り組んでいる。入居者の一瞬一瞬の笑顔を大切に、うまく表現できない方は心情を察しながら、今日はどうやったら笑ってもらえるかに取り組み、その笑顔に職員も励まされやりがいにつなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し総会・親睦会・地域の行事や奉仕活動などに参加し交流を深めている。地域の方々にGHの理解と認知度は徐々に進んでいる。	開設以来、地域や行政、関連医療機関等とは良好な関係が継続している。地域行事や地域の清掃活動に積極的に参加し、ボランティアからホーム行事の協力を受ける等、相互の交流も継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月の勉強会など地域の方にも開放して参加していただきともに学んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での推進委員の意見、助言などその都度職員に周知して改善を指示してサービス向上に生かしている。	会議が定例化し、整備した議事録を開示している。会議では、ビデオや活動記録を通して、入居者の状況や職員の取り組み等を報告し、参加者からの意見や助言を運営に反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	GHみやわかの勉強会に入会し、毎月の勉強会に地域包括センターの職員も出席されていて指導助言等頂いている。地域運営推進連絡会議時市役所の職員に相談し助言指導など頂いている。	行政や地域包括センターと、入居状況の報告等は密に連携を取り、受けた相談記録を残しておくように等の助言も受けている。年末には市職労青年部がお餅を持参され、お正月はそのお餅で雑煮を楽しむことが恒例となっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内外の勉強会等で学習する機会を持っており、代表者はじめ全職員が理解している。ベット柵やT字安全帯等使用時は「緊急やむ得ない身体拘束に関する説明書や記録」をご家族に提示し承認をいただいている。玄関の施錠は入浴介助等、職員の手薄な時間帯は、玄関の施錠をしている。	職員は拘束について繰り返し学習して、理解を深めている。センサーマットやベット柵の使用は、家族に了解を得て使用している。抑圧的にならないように笑顔でゆっくりした声かけが実践され、生命に係わること以外は見守りながら支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内外の勉強会などで学習する機会をもっている。管理者は毎日の介護サービスや入居者のご様子の変化などに注意を払い虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	講習会に参加して学ぶ機会をもっている。成年後見人の利用者が2名入居されている。後見人と家族との仲立ちなど各々に応じて相談に応じ支援できている。	制度等の資料は玄関に整備し、入居時に説明している。現在2名の成年後見制度の利用者があり、必要に応じて担当者と連絡を取り合って支援している。職員は研修により制度についての理解はできている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に契約関係書類をお渡しするとともに、契約時十分説明を行い納得したうえでの契約締結をおこなっている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者、ご家族の要望意見は、施設長・管理者が傾聴し職員で話し合い問題解決を図っている。苦情箱も玄関に設置してしている。職員に言いにくい場合の為、広域連合・市役所・第三者委員の連絡先を掲示している。	運営推進会議、行事参加や面会時に、家族の要望や意見を伺い、職員で検討し運営に反映させている。「またここに帰りたい」との希望で、退院まで居室を確保する等、本人の思いも大切にした取り組みをしている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングなどで出た意見要望は、早急に話し合い検討して反映できるようにしている。毎月の勉強会後全員で話し合う機会を取っている。	定例会議やミーティングなど、率直な意見が言える場がある。浴室の入り口や浴槽内部が滑りやすいとの提案で早急に滑り止めマットを購入したり、ベット柵の隙間が危険との意見でカバーをつける等、職員の意見が反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の職員と折々に面接している。勤務状況等気が付いた時は早急に面接して代表者に報告し協議して職員の働きやすい環境整備に努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	年齢性別で差別はしていない。30代から70代の職員が能力に応じて勤務している。	開設から12年になるが離職者は少ない。経験年数が長い職員が殆どで、其々の持ち味と経験を活かし乍ら働いている。子育て中の職員は、夏休みや突発時にもシフトを考慮してもらえるなどの体制があり、頑張って介護福祉士の資格も取得したいと抱負を語ってくれた。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	内外の勉強会等に参加して学ぶ機会をもっている。機会あるごとに入居者様の人権尊重については周知している。	年間計画に人権学習が位置付けられ、研鑽を積み重ね実践に取り組んでいる。管理者は入居者の人権を尊重し、言葉による拘束や暴力に留意した接遇が大事と、常に職員に声を掛けている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実 際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会 の確保や、働きながらトレーニングしていくことを 進めている	各々の職員の希望する資格取得や、内外の研 修の受講を勧め時間的・金銭面も援助してい る。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機 会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問 等の活動を通じて、サービスの質を向上させてい く取組みをしている	宮若市の同業者でGHみやわかを立ち上げ勉 強会や親睦会を毎月開催している為、参加し て交流している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困って いること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、 本人の安心を確保するための関係づくりに努めて いる	最初は、管理者が中心になって、ご本人様の 思いを吐露していただきGHについて何度でも 十分説明し納得していただき安心して頂く様に している。最初の1週間は日中・夜勤の職員も 増員して入居者様との関係づくりに努めてい る。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が 困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けな がら、関係づくりに努めている	最初に苑の見学に来た時から家族の思いを十 分お聞きするようするとともに、他のGHも見学 して納得する施設を選ぶようお話している。ま た、入居して当苑でできること、出来ないことな ど細かく説明して納得していただいている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等 が「その時」まず必要としている支援を見極め、他 のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前の面談でご家族や入居者様の要望を お聞きして、管理者を中心として必要な支援の 見極めをしいる。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、 暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として尊敬の念をもって信頼関係 を構築している。言葉・態度からも教わること が多いことは職員全員が実感している。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、 本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支 えていく関係を築いている	GHは入居者・ご家族・介護者がお互い支えあ いながら生活することを基本としているとご家 族に説明して納得して頂いている。連絡を取り 合い協力をしていただいている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族との外出や親しい人の訪問などは、常に勤めている。	昔ながらの近所付き合いが残っている地域で、「様子を見に来た」と友人や近所の方の訪問も多く、家族も知らない在宅時の様子を伺うこともある。来所した消防署職員からも、「隣のおばちゃん」と声を掛けられている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	各々の入居者の身体状況、性格などを勘案してテーブルの席順等配慮している。ペアリングなど従業員が仲立ちして効果を上げている。		
24		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所者様のご家族の訪問を受けたりして交流は続いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族の要望、アセスメント、日常の言動などから入居者様ご本人の希望・意向などをくみ取るように配慮している。	一人一人の思いは違うことを念頭に、時間をかけてアセスメントシートを整備し、さらなる思いや意向の把握に努めている。入居間もない方やひとりで過ごしたい方には、其々の思いに配慮して携帯電話の使用やさりげなく見守る等の支援をしている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、家族、前の施設、主治医などから情報を収集して対処している。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所時に収集した情報をもとに、入所初期は集中して観察しその情報を介護者全員が共有している。入居者様のすべて情報を介護者が共有して対処している。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護記録。ケアプランなどを開示して入居者、ご家族の要望をお聞きして、管理者・ケアマネ・看護師・介護職員などが協議して介護計画を立て、終了時には全員でモニタリングをして見直し再度計画を立てている。	把握した本人の意向や思いや、各職種による3か月毎のモニタリング結果を、介護計画に反映させている。入居者の現状と笑顔が見える計画の作成や計画の見直しに取り組んでいる。	入居者が限られた一日の中でどんな時に笑顔になれるのかなどの気づきやモニタリング結果を活かした計画の作成を期待しています。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日のバイタルチェック、介護記録、排泄状況、食事摂取状況、睡眠状況などを記録し情報を全職員が共有している。介護計画は通常は3カ月に1度・特段の変化のない時は6カ月に1度・変化があるときはその都度見直している。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	各々の入居者様・ご家族の状況の変化・要望などに即した支援をしている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの協力で畑で栽培して収穫した野菜の下ごしらえや、地域の催事に参加したり、見物したりしている。地域の四季の移り変わりごとの花見など楽しんでいる。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者・家族の希望したかかりつけ医との関係を継続している。特に希望のない方には、提携病院の訪問診療をつき1回受診している。必要に応じて病院受診を支援している。緊急時の主治医との連絡体制もできている。	日頃は、選択してもらったかかりつけ医や訪問診療等の受診を支援しているが、緊急時や休日は協力医療機関で適切な医療が受けられる体制となっている。耳鼻科・眼科等専門医受診は家族の協力をお願いしている。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内に看護師がおり、日常的に相談でき指示を受けることが出来ている。また訪問診療の看護師とも密に連絡を受けられる状態にある。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日常的に連携して相談・助言・指示をいただいている。家族の要望などを踏まえ早期退院が苑の方針であり、そのことは病院関係者にはご理解いただいている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化の対応の指針・DNR／DNIの意思表示の確認書など入居時に取り交わしている。重度化した場合は、本人、家族、主治医、当苑が協議して、病状が受診、往診、訪問看護で可能と主治医が判断すれば本人、ご家族の意向をくんだ支援をおこなう。	指針に沿って入居時や状態変化時に意向を確認し、同意書を交わしている。家族や医師と相談して医療機関に搬送しているが、ぎりぎりまでホームで暮らし、最後の時間を家族全員で見守ることが出来たと、家族から感謝の言葉をいただいている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応については、順次講習会に参加している。苑内の勉強会でも1年に1回は講師から実践指導を受けている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防計画を作成し火災や災害時の対策を立てている。夜間・日中の避難誘導のマニュアルを作成して、地域のボランティアも参加した避難誘導通報訓練を年2回実施している。	年2回日中・夜間想定避難訓練を消防署及び地域ボランティアの協力で実施している。訓練計画や実施記録、ビデオ映像もあり、見直しの資料として活用している。また、飲料水やお粥、乾パンなどが備蓄されている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	基本理念に人間としての尊厳の尊重を掲げ職員に周知している。入居者様とは個人情報の取り扱いの受託書類は入所時取り交わしている。従業員も入社時誓約書を取り、個人情報の守秘義務を周知徹底している。	入居者の姿は自分の姿、一人ひとりが大切に思うことは違っているという個人の人格を尊重したケアに取り組んでいる。愛用の化粧品を持参し受診時に化粧をされる方もあり、その人らしさを支援するケアを実践されている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が希望や自己決定しやすい環境と関係の構築できるよう努力している。じこけついでできるよう働きかけは、随時行っている。表出困難な入居者様には言動や表情から推し測っている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者本位の介護を常に目標にしている。気づき、スローペースを心がけ、動作・言葉の速度・声の高さも70%を心がけ入居者様に合わせる様指示し実践している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分が好みの洋服を着ておられる。何回も着替えられる方もいらっしゃるが見守っている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の野菜や地域の風習の献立などが多い。おひとりお一人の咀嚼・嚥下状態などにより食事の形状を変えて楽しい食事を入居者・職員と一緒に召し上がっている。ランチョマット・エプロンなどの後始末など手伝って頂いている。	敷地内の農園で収穫した野菜や、人気メニューの麺類・寿司・炊き込みご飯等が食卓に上っている。個々の咀嚼や嚥下状態に合わせて食べやすく工夫がされ、職員も同じテーブルで食事をしながら、見守りやさりげない声かけをしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	出来ている、特に水分摂取は、1500CCを目標に支援している。主治医からの特別指示のない方は、1500カロリーを目安にしている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後、おやつ後職員が介助したり、見守りしたりして口腔ケアをしている。入れ歯は每晚洗浄剤で消毒している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	各自の排泄パターンを把握して排泄表に記入しながら排泄誘導している。	トイレ前にセンサーを設置し昼間はトイレへの誘導をし、夜間はポータブルトイレでの排泄を支援している。適切な支援で紙パンツから布パンツになり、トイレで排泄が出来るようになった入居者もあり、自立に向けた支援に努めている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体を動かすよう誘導したり水分摂取を支援したりしている。特に便秘な方は起床時牛乳を差し上げたりして排便を誘導している。便秘薬も症状に応じて服用していただいている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	基本的には3日に1回。特別な場合はその都度対処している。入浴介助は安全の為2人介助をしている為、入浴時間は時間を決めてせざるを得ない状況です。	毎日入浴を希望される方の要望に応じたり、入浴日には入りたくない等の場合は、無理強いせず清拭や日延べをするなどの工夫をしている。安全の為2人体制で支援している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の方は、自由に過ごされている。居室で休まれる時は、温度湿度管理をいいて気持ちよく休まれている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	管理者・看護婦は、各自の処方薬の効用・副作用について理解し職員に説明している。服薬時は本人確認の為お名前を声に出して言っている。服用後は症状の変化の観察をするようにしている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみ、食事前の手伝いなどしていただいている。カラオケ・テレビ鑑賞・トランプ・風船遊び・庭の散歩・ドライブ等各自興味があることに参加されている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別外出は家族の協力なしではできない。花見・ドライブ・地域の催事などは家族・ボランティアの協力で出来ている。家族との外出は奨励している。	家族やボランティアの方との季節毎の花見や地域イベントの日本一長いケーキ作りへの参加は、日常的な楽しみとなっている。また家族との散歩時に家に寄って仏壇にお参りしたり、月1回の家族と外食を楽しまれるなど、其々の外出を支援している。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理ができる入居者はいません。トラブル防止の為、家族の合意のもと施設でお預かりしている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事前に了解している方には電話をしてお話していただいている。家族や親せきの方には手紙や電話をお願いしている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関ホールソファからは玄関の草花や道路が見え、リビングの窓からはヘチマの緑のカーテンが季節感を感じ、個室の窓からは田苑風景、木々の緑が見え各自が好みの場所で過ごされている。	玄関ホールには七夕飾りがあり、入居者は正面のソファから登下校の子供たちを眺めたり、おしゃべりを楽しんでいる。廊下には花見や季節毎の行事時の笑顔一杯の入居者の写真が貼られている。糸瓜の緑が涼しげなリビングは空調も完備され居心地よく過ごせる空間となっている	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関ホール・リビング・庭にベンチ等配置しており各自が好みの場所で、お一人で、気の合う仲間と過ごされている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使用していた家具や調度品、寝具、日用品などを持ち込まれ居心地良く過ごされている。	居室からは宮若の山並みが一望でき、室内には使い慣れたテーブルや家具が置かれ、ベッドの高さも個々に合った調整がされている。入り口には表札と入居者の写真や目印の飾りが掛けられ、心地よく過ごせる工夫がされている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・トイレ・風呂場・玄関スロープに介助パーを設置して出来る限り自力行動が出来る様工夫している。		